

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 28 日現在

機関番号：64302
研究種目：基盤研究(A) (一般)
研究期間：2013～2015
課題番号：25244011
研究課題名(和文) 海賊史観から交易を検討する：国際法と密貿易 海賊商品流通の学際的・文明的的研究

研究課題名(英文) The Pirates' View of Trade: International Law versus Illegal Trade--An Interdisciplinary Study of the Civilizations in Terms of the Piracy of Commodity Goods

研究代表者
稲賀 繁美 (INAGA, Shigemi)
国際日本文化研究センター・研究部・教授

研究者番号：40203195
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 37,900,000円

研究成果の概要(和文)：昨今の情報革命・流通革命は、サイバー環境におけるハッキングや複製権侵害、海賊商法の横行のみならず「海賊党」の宣言がなされる時勢を迎えている。これは、一面では、現在の技術革新に法体系が追いつかない状況を反映しているが、また他面では、ここ500年の世界史を踏まえた正義観や国際秩序が崩壊を遂げようとしている前兆に他なるまい。本研究では、あらたな秩序と反秩序との関係を模索した。具体的な提言は、刊行を予定する日本語の論文集および英文での会議報告書により公開される。

研究成果の概要(英文)：Piracy has become one of the main concerns of the contemporary society. The accusation of the rights infringement (from the established regime) may be objected by the opposing legal claim (especially by the piracy parties in the parliament). Obviously, the regulations of the current law are no longer capable of catching up with the latest technological innovations. But it also reveals that the present Western ethics and moral codes can no longer put under control the current globalization. The established world order is collapsing. A new model to cope with the intricate dependency of the order and the disorder should be searched for. By way of investigating into the illegal looking "art of survival" by the piracy, the present research under the grant-in-aide will publish its outcome as well as concrete proposals in a book-form collected papers of the contributors in Japanese as well as in Proceedings of an International Research Symposium.

研究分野：文化交渉史

キーワード：海賊 偽造 模造 贋作 密貿易 国際法

1. 研究開始当初の背景

現在の世界秩序は大きな転換期を迎えている。長期的には大航海時代以来 500 年の世界史の覇権に関する基本構造、中期的には帝国主義世界制覇からその残存としてのヤルタ体制の崩壊、さらに短期的にはインターネット環境の展開にともなう電子情報流通・商取引の抜本的な変貌といった要素が複合する。その結果として実体経済より巨大な金融経済、仮想現実の拡大、先端技術の革新などが結果した。だがこうした革新に対して社会秩序や倫理観は遅れを取っており、相互には齟齬や軋みが広がっている。本研究ではこうした背景を「海賊」という術語で総合的、学際的、国際的に検討することを志した。

2. 研究の目的

(1)南欧ついで西欧による世界覇権の確立と海賊との関係を 500 年の世界史の視野において再考察する。(2)従来の美術史学の枠を超え、商品流通という交易の見地から海賊商法の実態を解明する。(3)「著作権」や「複製権」が現在では商取引の実際や現実と齟齬をきたしている実態に鑑み、それらの法概念の萌芽から機能不全にいたる法律的問題を、法社会学あるいは人類学的に検討する。(4)国際法の成立過程とその現状における問題点を海賊行為から再考察する。(5)電子機器、オンラインでの商取引と従来の国民国家体制との矛盾を、文化的価値観・倫理観の次元にまで掘り下げて問い直す。

3. 研究の方法

具体的には、「海賊行為」を以下の 5 点から検討する。(1)大航海時代の世界分割から今日にいたる世界秩序形成。(2)東西交易における公認の貿易と密貿易(3)著作権・複製権の確立および近年におけるその破綻状況。(4)国際法確率過程と、帝国主義の先兵としての海賊行為。(5)商品・情報における海賊版の実態と現行法制との不一致。これらの課題ごとに分科会を組織し、国内国外の学会と連携しつつ調査・研究を進め、その成果を内外の研究者共同体と共有し、将来に向けての提言をまとめる。

4. 研究成果

(1)論文集刊行事業：5 つの分科会を設定し、初年度よりインド・台湾などの学会で研究実績を発表した。2 年次および 3 年次には成果論集の取り纏めのための討論会を実施、2015 年 12 月には原稿を集め『海賊史観からみた世界史の再構築(仮題)』として 2017 年度内出版を準備中である。研究終了に先立つ 2016 年 3 月段階で出版社より出版計画の承認を得て、現在、最終編集作業を進行中である。(2)研究代表者・研究分担者による関連業績：研究代表者・稲賀は単著『接触造形論』(名古屋大学出版会、2016 年)ほかに、研究成果の一部を収録した。その他の研究分担者、研究協力者による成果は、国内外の学会で発表され、学会誌などに刊行された。その詳細は、以下の一覧表に表記したとおりである。

(3)国際シンポジウムの実施およびその継続事業計画：継続事業として、パリ日本文化会館で成果の発表および、学術的な国際シンポジウム「時のうつわ、魂のうつし」(2015 年 1 月 20-24 日)を実施した。これは複製・海賊版の横行に関する哲学的な考察を軸とするものだが、その成果を基礎に、継続する研究計画として科学研究費補助金申請書「「うつわ」と「うつし」：情報化時代の複製技術・藝術の美的範疇刷新にむけて」(基盤研究 A)を提出した。これには報告書作成の現時点で、採択通知を受け取っている。

(4)国内研究者共同体に対する発信：3 年間の研究を総括するために、国内シンポジウム「海賊・山賊・馬賊：無法者 outlaw (アウトロー)の社会史にむけて」を 2016 年 2 月 12-13 日、国際日本文化研究センターで実施し、3 年間の成果を研究者共同体にむかって発信し、総合的な討議の機会をもった。

(5)国外研究者に対する発信：研究科学研究費による成果報告・国際的発信の機会として、研究代表者の本務先における「国際研究集会」の実施が 2015 年度に許可された。これを受け、Pirates' View of World History: Toward Possible Re-orientations (海賊史観からみた世界史の再構築)を 2016 年 4 月 27-29 日に国際日本文化研究センターにて実施した(会議経費は、国際日本文化研究センター予算)。この席で、当該科学研究費による成果を編集した「予稿集」(非売品)を作成し、5 つの分科会からの報告を受けて海外からの招聘研究員と意見交換をなした。その成果および提言は Nichibunken International Symposium Proceedings (国際研究集会報告書)として現在編集中である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 85 件)

範 麗雅、劇作家・翻訳家熊式一のロンドンでの文学・文化活動：中国古典戯曲の英訳・出版・上演を手掛かりに、アジア地域文化研究、第 12 号、2016 年 7 月(掲載確定) 査読有

稲賀繁美、移ろいゆく形、うけつがれる生命：伊勢神宮の遷宮を迎えて、霊性と東西文明：日本とフランス 「ルーツとルーツの対話」、2016 年、121-142 頁、査読有

稲賀繁美、全球的な知覚から近代性を問い直す：モダニティーを振り返って再定義し、デジタル化されたグローバル尺度モデルを修正する、美術館はいかにグローバルになれるのか？ How Global Can Museums Be?、2016 年、90-107 頁、査読無(招待講演の印刷)

稲賀繁美、Do japonismo ao medievalismo: a formação da estética oriental e a crise da cultura urbana moderna 都市の近代化と現代文化：ブ

ラジルと日本の対話、Modernização urbana e cultura contemporânea: diálogos Brasil-Japão、2015年、69-83頁、査読有
稲賀繁美、La vie transitoire des formes - Un patrimoine culturel à l'état d'eidos flottant、Le Sanctuaire d'Ise: Récit de la 62e Reconstruction、2015年、145-155頁、査読有
稲賀繁美、グローバル・スタンダードの功罪：海賊史観，帝国史観，輪廻転生史観にむけて、美術フォーラム 21、第 32号、2015年、29-34頁、査読有
稲賀繁美、Between Revolutionary and Oriental Sage: Paul Cézanne in Japan、Japan Review、No.28、2015年、133-172頁、査読有
橋本順光、山田長政の秘宝譚 『日東の冒険王』からオーストラリアの伝説まで、日本研究、11号、2015年、99-131頁、査読有
範 麗雅、姚克と英文『中国評論週報』、『天下』月刊：中国古典戯曲の紹介をめぐって、アジア地域文化研究、第 11号、2015年、129-149頁、査読有、hdl.handle.net/2261/57155
稲賀繁美、表現主義と気韻生動：北清事変から大正末年に至る橋本閑雪の軌跡と京都支那学の周辺、日本研究、第 51集、2015年、97-125頁、査読有
稲賀繁美、翻訳と憑依あるいは翻訳の骨折と骨折の翻訳、比較日本学教育研究センター研究年報、11号、2015年、86-94頁、査読有
橋本順光、ホイッスラーが切り結んだ日本 橋・花火・禅、ジャポニスム研究別冊、34号、2015年、29-38頁、査読有
稲賀繁美、Hokusai controversé La réception de son oeuvre en France entre 1860 et 1925、HOKUSAI - Le vieux fou d'architecture、2014年、75-89頁、査読有
稲賀繁美、交易の海賊史観にむけて：美術品交易を中心にして、日本学研究叢書 8・近代東アジアのアポリア、2014年、123-152頁、査読有
稲賀繁美、市場価値形成の一齣；モダニスト美学の起源と市場調査の昇華：エドゥアール・マネ売り立てにおける市場戦略、探求と方法：フランス近現代美術史を解剖する：文献学，美術館行政から精神分析・ジェンダー論以降へ、2014年、139-162頁、査読有
堀 まどか、ジョージ・メレディスの詩と日本近代 ハーンからヨネノグチへの継承と転換、日本語文学、64輯、2014年、405-425頁、査読有
莊 千慧、清末民初の中国における神智学の伝播と受容 伝統学知の復興に援用された西洋思想、比較文化研究、110

号、2014年、55-65頁、査読有
稲賀繁美、非母語という疑似餌(ルアー)には何が掛かるか、バイリンガルな日本語文学：多言語多文化のあいだ、2013年、22-46頁、査読有

稲賀繁美、Japanese Philosophers Go West: The Effect of Maritime Trips on Philosophy in Japan with Special Reference to the Case of Watsuji Tetsurō (1889-1960)、Japan Review、No.25、2013年、113-144頁、査読有
根川幸男、ある戦闘的キリスト者の大陸雄飛とブラジルでの教育活動 岸本昂一と暁星学園をめぐって、キリスト教社会問題研究、第 62号、2013年、199-225頁、査読有

① 根川幸男、第二次世界大戦前後の南米各国日系人の動向 ブラジルの事例を中心に、立命館言語文化研究、第 25 巻 1号、2013年、137-154頁、査読有

② 根川幸男、戦前期ブラジルにおける日系キリスト教教育機関の動向 1930年代前半の聖州義塾を事例として、経済学論叢、第 64 巻 4号、2013年、173-198頁、査読有

[学会発表](計 84 件)

瀧井一博、日本憲法史における伊藤博文の遺産、慶應義塾大学大学院法学研究科主催シンポジウム・「憲法改正」の比較政治学、2016年2月6日、慶應義塾大学三田キャンパス(東京都・港区)

山田奨治、日本の著作権を変えているのは誰か、日本文化政策学会、2016年3月5日、高崎経済大学(群馬県・高崎市)

橋本順光、タコの物語の変身 ピティポーン・ワターティヤーポーン 『タコの変身』(2013)から映画『ペンギンズ FROM マダガスカル』(2014)までを例にしたマンガ研究の試み、シーナカリンウィロート大学人文学部日本語学科特別講演会、2015年12月14日、バンコク(タイ)

稲賀繁美、テオドール・デュレ、その旅行、コレクション、日本への友情、大手前学園 70 周年・大手前大学 50 周年記念 『日仏交流シンポジウム：日仏文学・美術の交流：トロンコワ・コレクションとその周辺 その 2』、2015年11月22日、大手前大学さくら夙川キャンパス(兵庫県・西宮市)

稲賀繁美、Global Perception of the Modernity in Question: How to Redefine "Modernity" in Retrospect :So as to Readjust the Digitalized Global Scale Model、CIMAM 2015 Annual Conference、How Global can Museum be?、2015年11月7日、六本木アカデミーヒルズ(東京都・港区)

吳 孟晋、吳讓之花卉雜画中的交友關係：以日本收藏作品為中心、吳趙風流：吳讓之、趙之謙書画印學術研討會、2015

年10月28日、マカオ(中国)
 瀧井一博、明治立憲制の理念と現実、広島史学会、2015年10月24日、広島大学東広島キャンパス(広島県・東広島市)
 藤原貞朗、東洋美術史編纂をめぐる国際的・学際的競合と齟齬東洋美術史、日本比較文学会東京大会、2015年10月17日、東京工業大学大岡山キャンパス(東京都・目黒区)
 稲賀繁美、How the Kōrin and the Rimpa School became a world brand?: Toward an Aesthetic Global Strategy around “utsushi” and “yosooi”、Say about “Technology and Value of Brand”、2015年10月16日、済州(韓国)
 稲賀繁美、Heritage Management as an Act of Compensation: from Hiroshima to Fukushima, Wounds, Scars, and Healing: Civil Society and Postwar Pacific Basin Reconciliation、2015年10月1日、シドニー(オーストラリア)
 榎本 涉、10世紀中国浙江省の新羅坊、海洋史ワークショップ「東アジア海洋史の再構成のための始まり:9世紀から13世紀まで」、2015年8月27日、ソウル(韓国)
 稲賀繁美、ジャポニズムと琳派:装飾再考:ルイ・ゴンス、ロジェ・マルクス、エミール・ガレ、クロード・モネ、ジャポニズム学会、2015年7月25日、京都国立近代美術館(京都府・京都市)
 山田奨治、<文学作品>の輪郭を決めるもの-資本・テクノロジー・著作権、昭和文学会、2015年6月13日、立教大学池袋キャンパス(東京都・豊島区)
 呉 孟晋、中国近現代絵画於日本の情況、「万象神采:二義草堂蔵近代中国書画」展專題講座、2015年5月9日、香港(中国)
 呉 孟晋、書画の革命・革命の書画、「于右任書法名品展」関連講座、2015年4月11日、天門美術館(大阪府・枚方市)
 稲賀繁美、脱皮と変態:生皮を剥がれたバッタモン:グローバル時代の商標と複製権、グローバル時代と東アジアの文化表象()、2015年2月6-7日、ソウル(韓国)
 ミュリエル・ラディック、La Ruine et la tradition: entre le cristal et la fumée... (廃墟と伝統:結晶と煙とのあいだ) Berceau du temps, Passage des âmes (時のうつわ, 魂のうつし) 2015年1月24日、パリ(フランス)
 橋本順光、Tentacles Strike Back: From Multi-Armed Monster to Model Minority? (逆襲する触手:多足多腕の怪獣からマイノリティーのモデルへ?) Berceau du temps, Passage des âmes (時のうつわ, 魂のうつし) 2015年1月24日、パリ(フ

ランス)
 山中由里子、L' Esprit liquéfié en larme et son récipient (うつわにうつされる心 涙壺をめぐる比較考察) Berceau du temps, Passage des âmes (時のうつわ, 魂のうつし) 2015年1月24日、パリ(フランス)
 鶴戸 聡、Le *copiage* du sujet chez Kateb Yacine: l'écriture archipelagique, ou la cosmographie comme « utsushi » (テブ・ヤシンあるいは複写による主体の略奪:群島のエクリチュールないしは、「うつし」としてのコスモグラフィ) Berceau du temps, Passage des âmes (時のうつわ, 魂のうつし) 2015年1月24日、パリ(フランス)
 ⑲ 西田雅嗣、Copier la forme chez Hokusai en architecture: ou le modèle en tant que moulage de savoir-faire en multiplication. (物の象(かたち)を写す事:北斎の建築図 うつしのうつわとしての雛形) Berceau du temps, Passage des âmes (時のうつわ, 魂のうつし) 2015年1月24日、パリ(フランス)
 ⑳ 稲賀繁美、La Réceptacle et la transposition: en préambule, Berceau du temps, Passage des âmes (時のうつわ, 魂のうつし) 2015年1月23日、パリ(フランス)
 ㉑ 藤原貞朗、L' Affaire de la « Jarre de l' époque Einin » ou un simulacre de tradition japonaise de la céramique (「永仁の壺」事件と伝統日本工芸のシミュラクル) Berceau du temps, Passage des âmes (時のうつわ, 魂のうつし) 2015年1月23日、パリ(フランス)
 ㉒ 近藤高弘、顔と憑依:モノの転生と藝術家の生涯 (Le Visage et la possession -la vie d' artiste dans la transmigration) Berceau du temps, Passage des âmes (時のうつわ, 魂のうつし) 2015年1月23日、パリ(フランス)
 ㉓ 岡本光博、虎縄文の脅威:コピーのコピーは何を生むか? (Tiger-rope menaçant: métamorphose des copies recopiées) Berceau du temps, Passage des âmes (時のうつわ, 魂のうつし) 2015年1月23日、パリ(フランス)
 ㉔ 大船真言、物質とアウラ:地学的想像力とモノの再生 (La Matière et l' aura) Berceau du temps, Passage des âmes (時のうつわ, 魂のうつし) 2015年1月23日、パリ(フランス)
 ㉕ 大西宏志、霊媒(メディア)としてのメディアアート (Art-media comme médium -média -milieu) Berceau du temps, Passage des âmes (時のうつわ, 魂のう

- つし) 2015年1月23日、パリ(フランス)
- ②8 山中由里子、Travelling Narratives and Networks of Knowledge: the Case of the Alexander Romance、Knowledge Transfer Across Borders: Integrative Approaches、2015年1月16日、ゲッチンゲン(ドイツ)
- ②9 稲賀繁美、移ろいゆく形の生命: 古寂びを帯びる《束の間》: フランスから見る伊勢神宮 La vie transitoire des forms: un moment qui prend de la patine: une petite réflexion sur le sanctuaire d' Ise、日仏シンポジウム『ルーツとルーツの対話』Colloque franco-japonais Dialogue racines contre racines、2014年3月11日、皇學館大學(三重県・伊勢市)
- ③0 山田奨治、創作とその保護をめぐる日本の伝統・近代・グローバル化、Tradition, Modernity and Globalization in Japan、2014年3月1日、ブカレスト(ルーマニア)
- ③1 鞍田 崇、Are You Happy?、8th Japanese-French Frontiers of Science Symposium、2014年1月26日、メッス(フランス)
- ③2 吳 孟晋、陳澄波与一九二〇年代日本の油画、「陳澄波專題研究2014」工作坊、2014年1月8日、台南(台湾)
- ③3 吉永進一、Theosophy in Japan, Its Meanings and Transformations、Lecture for the Cluster of Excellence, Asia and Europe in a Global Context、2013年12月20日、ハイデルベルク(ドイツ)
- ③4 吉永進一、Theosophy in Japan, Its Meanings and Transformations、Research Workshop Theosophical Appropriations、2013年12月16日、ベエルシェバ(イスラエル)
- ③5 吳 孟晋、從須磨収蔵看嶺南画派画现实生活表现的表現: 以容大塊所画的作品为中心、「国画復活運動与広東中国画」国際學術研討会、2013年12月12日、広州(中国)
- ③6 吳 孟晋、Yuan Jiang 's Screen and its Function in Eighteenth-century Yangzhou、The Making of Chinese Painting: 700 to the present、2013年12月5日、ロンドン(イギリス)
- ③7 堀 まどか、戦争詩の系譜とメディア民の声をうたう詩人たちの格闘と想像力、韓国日本思想史学会・国際シンポジウム「記録・想像力そして真実 韓日の集団的記憶に対する思想史的再考」、2013年11月23日、ソウル(韓国)
- ③8 鶴戸 聡、Théâtre japonais entre son raffinement traditionnel et sa pratique folklorique、第五回ベジャヤー劇場国際フェスティバル・国際シンポジウム、2013年11月2日、ベジャヤー(アルジェリア)
- ③9 山田奨治、文化財のデジタル複製・置換を考える、カルコン美術対話委員会イニシアチブ「日米美術フォーラム~ミュージアムの未来~」、2013年10月21日、大塚国際美術館(徳島県・鳴門市)
- ④0 鶴戸 聡、Lire Albert Camus dans le contexte postcolonial algéro-japonais、韓国フランス学会秋季大会、2013年10月12日、大田(韓国)
- ④1 藤原貞朗、大戦間期の日仏会館の東洋学者とフランス極東学院 日仏会館創設に関する新資料の紹介、日仏会館創立90周年記念国際シンポジウム、2013年10月6日、日仏会館(東京都・渋谷区)
- ④2 稲賀繁美、橋本閑雪の南画における西洋と中国、生誕130年 橋本閑雪展、2013年9月22日、兵庫県立美術館(兵庫県・神戸市)
- ④3 堀 まどか、韓国の常識・日本の非常識、「楽しい韓国文化論」第一回公開講演会、2013年9月7日、東亜大学(山口県・下関市)
- ④4 堀 まどか、境界から「日本を考える」詩人・野口米次郎とその周辺を中心に、「サントリー財団」可能性としての『日本』」研究会、2013年8月5日、サントリー・アネックス(大阪府・大阪市)
- ④5 山田奨治、模倣と創造の文化史再考、日本知財学会2013年度春期シンポジウム「模倣と創造 イノベーションへの道」パネル討論「模倣の学際的研究」、2013年6月20日、政策研究大学院大学(東京都・港区)
- ④6 稲賀繁美、The Changing Taste for Japanese Crafts in the West (1867-1910)、ヴィクトリア&アルバートミュージアム、2013年6月7日、ロンドン(イギリス)
- ④7 吳 孟晋、王濟遠的油画、水彩画和水墨画: 有關中国近现代油画家的創作意識、「万象更新: 現代性、視覚文化与二十世紀中国」国際學術研討会、2013年5月28日、宜蘭縣礁溪鄉(台湾)
- ④8 稲賀繁美、A la recherche du vocabulaire de la spatialité japonaise、École pratique des hautes études、2013年5月14日-6月3日、パリ(フランス)
- 〔図書〕(計26件)
 稲賀繁美(編)・劉 建輝・山田奨治・榎本 涉・クレインス フレデリック・藤原貞朗・橋本順光・吳 孟晋・鞍田崇・大西宏志・範 麗雅・他(調整中) 思文閣出版、海賊史観からみた世界史の再構築(仮題)、2017年、未定
 稲賀繁美、名古屋大学出版会、接触造形論: 触れあう魂、紡がれる形、2016年、484頁

山田奨治、人文書院、日本の著作権はなぜもっと厳しくなるのか、2016年、200頁

根川幸男（解題執筆）、不二出版、編集復刻版 戦前期ブラジル移民日本語読本、2016年、300頁

根川幸男・他 15名、クロスカルチャー出版、メディア 移民をつなぐ、移民がつなぐ、2016年、416頁（245-272頁）
根川幸男・他 7名、現代史料出版、越境する「二世」 1930年代アメリカの日系人と教育、2016年、265頁（233-257頁）

根川幸男（編著）・他 1名、ミネルヴァ書房、越境と連動の日系移民教育史、2016年、（印刷中）

劉 建輝（編著）・山田奨治・榎本 渉・他 23名、国際日本文化研究センター、日越交流における歴史、社会、文化の諸課題[ベトナムシンポジウム 2013]、2015年、264頁

クレインス フレデリック（編著）、臨川書店、日蘭関係史をよみとく（下巻）運ばれる情報と物、2015年、254頁
板倉聖哲（責任編集）・呉 孟晋・他 7名、小学館、石濤への憧れとその実際：大正後期の「解衣社」の画家たちをめぐる『日本美術全集：東アジアのなかの日本美術（テーマ巻1）』、2015年、295頁（283-284頁）

鞍田 崇、明治大学出版会、民藝のインティマシー 「いとおしさ」をデザインする、2015年、228頁

稲賀繁美・大西宏志・近藤高弘・大船真言・岡本光博、自主出版、Réceptacle du passage、2015年、20頁

山中由里子（編）、名古屋大学出版会、<驚異>の文化史、2015年、528頁
松本 郁代（編著）・出光 佐千子（編著）・彬子女王（編）・呉 孟晋・他 11名、思文閣出版、「中華民国期の絵画における「風俗」へのまなざし」『風俗絵画の文化学：瞬時をうつすフィロソフィー』、2014年、419頁（41-74頁）

Philippe Bonnin, Nishida Masatsugu et Inaga Shigemi eds., CNRS EDITIONS, Vocabulaire de la spatialité japonaise 日本の生活空間、2014年、605頁

稲賀繁美、名古屋大学出版会、絵画の臨界 近代東アジア美術史の桎梏と命運、2014年、581頁+189頁

②① 藤原貞朗・服部 正（著）、名古屋大学出版会、山下清と昭和の美術 「裸の大将」の神話を超えて、2014年、523頁

②② 中村和恵、平凡社、dress after dress クローゼットから始まる冒険、2014年、214頁

②③ 劉 建輝、国際日本文化研究センター、日華学会関連高橋君平文書資料、2014

年、319頁

②④ 孫 江・劉 建輝（編）、東方書店、東アジアにおける近代知の空間の形成、2014年、433頁

②⑤ 鈴木貞美・劉 建輝（編）、国際日本文化研究センター、東アジアにおける知的交流 キー・コンセプトの再検討・第44回国際研究集会、2013年、405頁

〔その他〕

ホームページ等

稲賀研究室

www.nichibun.ac.jp/~aurora/inaga/

うつわとうつしUtsuwa et utsushi

www.facebook.com/utsuwa utsushi

6. 研究組織

(1) 研究代表者

稲賀 繁美 (INAGA Shigemi)

国際日本文化研究センター・研究部・教授

研究者番号：40203195

(2) 研究分担者

藤原 貞朗 (FUJIHARA, Sadao)

茨城大学・人文学部・教授

研究者番号：50324728

呉 孟晋 (KURE, Motoyuki)

独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部列品管理室・研究員

研究者番号：50567922

橋本 順光 (HASHIMOTO, Yorimitsu)

大阪大学・文学研究科・准教授

研究者番号：80334613

鞍田 崇 (KURATA, Takashi)

明治大学・理工学部・専任准教授

研究者番号：80469618

大西 宏志 (ONISHI, Hiroshi)

京都造形芸術大学・芸術学部・教授

研究者番号：90351361

劉 建輝 (LIU, Jianhui)

国際日本文化研究センター・研究部・教授

研究者番号：00321620

山田 奨治 (YAMADA, Shoji)

国際日本文化研究センター・研究部・教授

研究者番号：20248751

瀧井 一博 (TAKII, Kazuhiro)

国際日本文化研究センター・研究部・教授

研究者番号：80273514

榎本 渉 (ENOMOTO, Wataru)

国際日本文化研究センター・研究部・准教授

研究者番号：60361630

クレインス フレデリック (CRYNs, Frederik)

国際日本文化研究センター・研究部・准教授

研究者番号：90370139